



◎新荒川大橋の開通

東京府々縣道東京川口線ミ、埼玉縣府縣道鳩谷岩淵線ミを連絡し荒川に架設した新荒川大橋が竣功したので、初秋の空高く残暑未だ去らざる九月十六日午前十時から之が開通式を舉行した。

由來本道路は、岩淵街道又は日光御成街道ミ稱し、帝都北門を扼する樞要路線の一であつて、近來停止するこゝなき産業の發展は大東京ミ埼玉縣下ミの交通運輸を益々緊密ならしめて居つた。然るに本路線には荒川に架するに貧弱なる賃取船橋を以てして僅かに人畜の往來ミ、制限せられたる牛馬車の通行を許すのみで其の不便は實に此の上なく、しかも僅少な出水にも忽ち交通杜絶の已むなき狀況を

呈し地方産業の振興を阻害するこゝ蓋し渺なからざるものがあつた。

しかるに東京府及埼玉縣當局は夙に鑑みる所あり之が架橋の計畫を樹立し、大正九年兩府縣會の議を経て工費金八十二萬圓を折半負擔し五ヶ年繼續事業となし、工事は東京府知事に於て之を執行するこゝ、したが、途中偶々大正十二年九月未曾有の關東大震災に遭遇した爲め、更に、工期を三ヶ年延長して本年九月全くその工を竣つたのである。

開通式は技術の精巧ミ規模の宏壯で且關東一の長橋ミ稱せらる、新裝の橋上に於て舉行せられた。當日は正に今夏掉尾の炎熱が思はる、程で流汗溼瀉たるものがあつたが、得意ミ喜色に満てる兩府縣知事以下府縣當局、府縣選出代議士、府縣會議員、關係地方有志、新聞記者等約二千名の參列者を得、内務省からは望月内相自ら臨席せられ、本會からは會長代理ミして前川第一技術課長臨席して嚴肅なものに舉行せられた。時に沿道は鯨幕提灯を張り國旗を掲

揚して祝ひ、兩岸堤上堤下には沿線地方より繰出したる數萬の群集蹶起して喜ぶに加へて此間、東朝、東日の兩新聞社は祝賀の飛行機を飛ばすやら煙火を打擧げるやらして景氣を副へ全く大仕掛の歡呼の内に閉式した。

内務大臣及本會々長、地元町村長の祝辭並工事の概要は左の如くである。(衛)

祝辭

新荒川大橋架設工事竣功ヲ告ク本日茲ニ開通式ヲ舉行セラル寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

本橋ハ東京府埼玉縣界ヲ貫流スル新荒川ニ架設セラレ其ノ地點タルヤ交通上極メテ重要ナル位置ヲ占ムルニ拘ラス從來纜ニ船橋ニ依リ辛フシテ交通ノ便ヲ圖レルニ過キス今兩府縣ノ協力ノ下ニ宏壯堅牢ナル新橋ノ架設ヲ見ル念フニ帝都ト埼玉縣下東部地方トノ交通ノ利便之ニ依テ面目ヲ一新シ地方ノ開發産業ノ發達ニ資スル所蓋シ尠少ナラサルヲ信ス冀クハ今後更ニ之カ維持管理ニ最善ノ努力ヲ致シ以テ長ニ其ノ效果ヲ完フセラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年九月十六日

内務大臣 望月 圭介

祝辭

新荒川大橋架設功ヲ竣ヘ本日ヲ以テ開通ノ式典ヲ擧ケラレ邦家ノ爲メ洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ抑本橋ハ帝都ヨリ埼玉縣東部地方ニ通スル重要府縣道ニ架セラレ頃時増加シタル交通ハ舊來ノ如キ船橋ヲ以テヨク辯スヘキニアラス東京埼玉兩府縣當局深ク之ヲ憂ヒ冀ニ架橋ノ計畫ヲ起シ工ヲ積ム二年餘今乃チ宏壯ナル本橋ノ竣成ヲ見ル惟フニ本橋開通ノ功果ハ沿線地方交通ノ利ヲ便シ地方産業ノ隆昌ヲ招來スルニ至ルヘシ冀クハ官民協力宜ク維持管理ニ努メ以テ長ニ其效果ヲ收メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年九月十六日

道路改良會會長 水野 鍊太郎

祝辭

昭和三年九月十六日東京府埼玉縣新設新荒川大橋落成開通祝賀式ヲ舉行セララルルニ當リ不肖亦席末ニ列スルヲ得タルハ洵ニ協贊會ノ光榮トシテ感謝措ク能ハサル所ナリ抑モ新荒川大橋ハ大正十二年計畫調査ノ聲ヲ揚ケ工事ニ着手シテヨリ三有餘年而モ諸種ノ事情ハ容易ニ之カ實現ヲ許サザリシカ府縣要路者ノ專念努力ト兩町民諸氏ノ熱誠ナル後援トニ依リ逐次難工ノ進捗ヲ齎シ爰ニ一大橋梁ノ完成ヲ見タルハ過グル明

治ノ船渡場タリシヲ願ミテ轉令昔ノ感ニ堪ヘス誠ニコレノ帝都
北門ヲ飾ル一大偉觀ニシテ川口岩淵兩町運輸交通ノ發達産業文
化ノ興隆ニ寄與スル事ノ顯著ナルヲ信シテ疑ハス本日此ノ盛大
ナル祝賀ノ典ニ列スルヲ得タルハ本協賛會至上ノ欣快トスル所
ナリ而シテコレカ工事遂行ニ關シ直接間接獻與セラレタル府縣
要路者兩町有志ノ功績没ス可カラズ併セテ請賀者ノ精勵努力又
多トスヘキナリ

茲ニ滿腔ノ慶情ヲ披歷スルト同時ニ感謝ノ意ヲ表ス一言ヲ叙シ
テ祝辭トナス

昭和三年九月十六日

新荒川大橋開通式協賛會長

東京府北豐島郡岩淵町長正六位勳四等 川 溟 靜 美

祝 辭

新荒川大橋工ヲ竣リ本日ノ佳辰ヲトシテ開通式ヲ舉ケラル洵ニ
慶賀ニ堪ヘサル所ナリ惟フニ人文發達ノ道程ハ交通機關ノ整備
ニテアリ而シテ本橋ハ荒川ノ上流ニ架シ帝都ノ北門ヲ扼シ埼玉縣
下ニ通スル隨一ノ要衝ニシテ大都市形成上重大ナル意義ヲ有シ
地元町村ハ勿論荒川流域ニ於ケル文化ノ伸展ト産業ノ振興ニ及
ス所ノ效果ハ亦甚大ナリト謂フ可シ今ヤ世運ノ進展ニ伴ヒ人馬
ノ往來日ニ頻繁ヲ告ケ交通運輸ノ業益殷盛ヲ極ムル時ニ當リ本

橋ノ完成ヲ見ルニ至リタルハ社會公衆ノ躋シテ幸福トスル所ニ
シテ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ聊カ蕪辭ヲ述ヘテ祝辭トナス

昭和三年九月十六日

王子町長 江 口 義 一

告 辭

新荒川大橋架設新ニ成リ茲ニ朝野諸賢ノ實臨ヲ恭ウシ竣工ノ式
典ヲ舉行スルハ本職等ノ最モ光榮トシ且欣快トスル所ナリ
抑モ本路線ハ世俗日光街道ト號シ國道ニ亞ケル主要府縣道ニ屬
シ夙ニ來往ノ要衝ニ當ルノミナラス輒近都鄙ヲ通シ蔚然タル產
業ノ隆昌ト路面ヲ駛走スル高速度機關ノ發達トニ伴ヒ交通量ノ
增加復昔日ノ比ニアラス然モ本道路ヲ橫斷スル荒川ノ連絡ハ古
來船橋ノ便ニ依リ纔ニ之ヲ保持セラルニ過キス爲ニ運輸ノ圓滑
ヲ阻害シ著シク時運ノ要求ニ副ハサルモノアリ兩府縣當局深ク
茲ニ鑑ミ政府ノ道路改良政策ニ順應シテ曩ニ本橋架設ノ議ヲ決
シ直ニ工ヲ起シ拮据經營財ヲ投スルハ拾有壹萬圓月ヲ閉スルニ
十有三ヶ月ニシテ今ヤ完ク成ル願ミテ改善ノ跡顯著ナルモノア
ルハ蓋シ關係官廳ノ深甚ナル指導ト地方有志ノ熱誠ナル援助ト
ニ負フ所大ナルモノアリトス加之本日ノ式典ニ莅ミ更ニ協賛會
ヲ組織シテ興趣ヲ副ヘラル洵ニ感激ニ堪ヘサルナリ
惟フニ邦家ノ隆昌ト人文ノ啓發ニ資スル所以ノ施設素ヨリ多々

アリト雖交通機關ノ整備ト改善ハ其ノ急且切ナルモノ、一タリ
希クハ本橋ノ利用ヲ擴充シ由テ以テ殖産興業ノ實ヲ擧グルヲ得
ハ是レ獨リ沿道住民ノ慶福ノミニ止マラサルヘシ一言ヲ叙シテ
告辭トス

昭和三年九月十六日

東京府知事 平塚 廣義
埼玉縣知事 宮脇 梅吉

工事の概要

- 一 起業者 東京府知事
- 二 架橋位置 東京府岩淵町立會 荒川
埼玉縣川口町
- 三 延長 二千七百八十四尺二寸五分(七町四十四間強)
- 四 幅員 有效四間

五 工法

(イ) 徑間二百六尺ワロン結構橋三連、徑間
百四十尺拱橋一連、徑間七十五尺桁橋十六連。
(ロ) 床板は鐵筋混凝土構造としソリデチツト
鋪裝をなす。
(ハ) 橋臺は基礎に松丸太を打建て橋脚基礎は
低水敷部は井筒基礎、洪水敷部は抗打を基礎に

して主體は何れも鐵筋混凝土構造とす。
(ニ) 荷重は固定荷重を採用す。

六 工費 八十一萬圓

七 財源 東京、埼玉兩府縣折半支出

因に本橋の川口町側に於て過急な勾配を以てする連絡道
路に對し引續き相當考慮して本橋架設の成果を納められむ
ことを敢て埼玉縣當局にお願ひして擱筆するにこころする。

◎本會道路改良講演會の開催

豫ねて實現さるべくして遷延したる本會主催東北地方道
路改良講演會は、過般愈々その機熟し、福島、山形、秋田
岩手、富山の各縣下の數ヶ所に於て開催することとし、本
會理事中川正左、同工學博士牧彦七、評議員松木幹一郎、
幹事武井群嗣、同佐藤利恭及都筑通督の諸氏を該地方へ派
遣した。右一行は去月二十四日郡山市を振出しに各地を經
て十一月三日高岡市の講演を最後として歸京の豫定である
が、更に此間、水野會長、宮崎土木局長、丹羽道路課長、

田中事務官等に於ても出来得る限り事務差繰りの上出講の豫定である。(衛)

◎京都府桂橋の竣功

十八號國道中京都府下桂川に架する桂橋架換工事が竣功したので去る十九日午前十時から威容成れる新橋々上に於て竣功式を舉行した。この日朝來逝く秋の肌寒く、雨模様雲さへ見えたが、今日を壽く沿道町村からは何の物かほご早朝から老若男女陸續と同橋目掛けて出るはくその數正に萬を以て算せられ、兩岸一帯に歡喜の垣根を巡らした。殊に本橋は、京都府に於て國庫より助成せられたる土木工事の嚆矢と稱せらるゝのミ着手以來僅かに九ヶ月にして竣功せしめたこいふ記録を現はした丈けに今日の佳き日を祝はんこ、貴衆兩院議員や府市會議員、京都帝大關係教授、新聞記者、實業家等の微笑の顔も數多く見受けられた。定刻直前には秋空全く晴れ渡り、間も無く知事以下府當局者の來場あり、内務省からは加藤參與官の臨席あり、かく

て型の如く舉式せられ、最後に知事は請負人に感謝狀を贈與して嚴肅裡に閉式した。

引續き同橋々畔に於て祝賀會あり、積に於ては餅播きの催しありて興を添へ午後一時盛會裡に閉會した。

工事概要及祝辭は左の如くである。(衛)

工事概要

- 一架換位置 京都府葛野郡桂村、京極村立會桂川
- 二延 長 百七十八間外ニ道路二百五十間
- 三幅 員 橋梁四間道路四間半
- 四工 法 鋼鈹桁橋
- 五工 費 三十八萬二千六百七十五圓
自大正十五年
昭和元年度 繼續事業
至和昭四年度
- 六施行年度 一般府費及國庫補助金
- 七財 源 橋梁費に對し三分二道路費に對し二分一を補助す
- 八國庫補助

式 辭

本日茲ニ桂橋架換工事竣工ノ式典ヲ行フニ當リ來賓各位多數ノ

實臨ヲ泰フシタルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

抑本橋ハ京都ヨリ西一里餘國道十八號線桂川横過地點ニ位シ大ニシテハ所謂山陰街道ノ咽喉ヲ抱シ小ニシテハ管下丹波丹後地方道路網ノ根幹タル地點ニ在リ然ルニ舊橋ハ四十年前明治二十二年ノ架設ニカ、リ橋齡既ニ盡キントシ然モ自動車ノ交通益々激甚ヲ加フル今日最早如何ニ修理補強ニ努ムト雖到底維持シ難キノ實狀ニ在リタルヲ以テ府當局ハ淀御幸ノ兩大橋ト共ニ之カ改良ノ計ヲ樹テ大正十四年工費三十八萬二千餘圓四ヶ年繼續事業トシテ施行ノ豫算ヲ府會ニ提出シ其協贊ヲ得タリ然ルニ其ノ實施ニ當リ財源ノ關係上工事ニ着手スル能ハス往再二ヶ年ノ歲月ヲ經過シタリシハ府民ノ最モ遺憾トセル所ナリシガ偶々今秋ハ御即位ノ大禮ヲ目前ニシ貴顯ノ御來往參列員ノ往復煩繁ナルヘキ桂離宮ヲ控フルアリ本橋ノ改良ハ急務中ノ急務ナルヲ認メ京阪國道改良案ト併セ考究既定ノ財政計畫ヲ變更シ府會ノ承認並ニ政府ノ諒解ヲ得タルヲ以テ御大禮ノ時期迄ニ完成ナ期シ本年二月工ヲ起セシガ起工以來當事者ノ精ト勵關係各位ヲ御援助ニ依リ豫期ノ如ク進捗シ今ヤ其工ヲ竣ヘ曠古ノ大禮ヲ前ニシテ形容ノ優美構造ノ堅牢舊來ノ面目ヲ一新シタル現代的ノ新橋ノ架設ヲ見ルニ至リタルハ府民ト共ニ眞ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ茲ニ竣工式ニ當リ一言叙シテ式辭トス

昭和三年十月十九日

京都府知事 大海原重義

祝 辭

桂橋改良工成ルヲ告ケ茲ニ本日ヲ以テ竣工式ヲ舉ケラル洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ由來京都市ハ帝國ノ舊首都トシテ久シク文化ノ中心タリシノミナラス美術工藝ノ淵藪トシテ名聲凡ニ宇内ニ冠絶シ名勝舊蹟市ノ内外ニ點在セルモノ多キヲ以テ遠近ノ來遊者常ニ頻繁ヲ極メ殊ニ輓近著シク近代都市トシテノ發展ヲ見ルニ至レリト雖市ヨリ放射スル重要幹線タル國道ノ施設改良尙未タ十分ナラサルモノアリ府當局深ク此ニ鑑ミ曩ニ二號國道中淀大橋御幸橋ノ改良ト共ニ十八號國道ニ於ケル本橋ノ架換ヲ企畫ス抑々十八號國道ハ京都ヨリ山陰地方ニ達スル重要幹線道路ニ屬シ近ク舞鶴宮津兩港ヲ連絡スルノ外遠ク鳥取松江兩市ニ通スル主要幹線ナルヲ以テ政府ハ乃チ之カ架橋ヲ助成シ茲ニ堅牢宏壯ル新橋ノ成ルヲ告ケ

念フニ之ニ依リテ交通ノ利便更ニ一段ヲ加ヘ近々行ハセラルヘキ御大禮ニ際シテ内外人士ノ來往ニ便シ京都市及近接地方ノ發展ニ資補スル所蓋シ甚タ大ナルモノアラン翼クハ之カ維持管理ニ力メ以テ長ニ其ノ效果ヲ收メラレムコトナ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年十月十九日

内務大臣 望月圭介

祝 辭

本府三大橋ノ一タル桂橋架換工事成リ本日茲ニ竣工ノ盛典ヲ舉
ケラルハ洵ニ慶賀ノ至リナリ

惟フニ本橋ハ遠ク愛宕峻峰ヲ仰キ遠ニ東山三十六峰ノ翠巒ノ起
伏スルヲ望ミ森嚴閑雅ノ桂離宮ノ保津ノ清流ニ映發スルアリ洵
ニ景勝ノ地タルノミナラス所謂往時ノ山陰街道ニシテ京絡山陰
交通ノ要路ニ當レリ故チ以テ奸族旗ヲ飄シテ馬ヲ此ニ進メ京師
ヲ睥睨セリ

嘗テ其盛ナルヤ人馬ノ往來絡驛トシテ殷盛ヲ致セシカ星遷リ歲
變リ時ニ盛衰アリシト雖モ軌近地方産業ノ振興ハ頓ニ其交通量
ヲ增加シ今ヤ昔日ノ盛觀ヲ凌グニ至レリ

本府當局夙ニ此ニ鑑ル所アリ曩キニ本府三大橋架換ヲ提案セテ
レ更ニ曠古ノ昭和大典ヲ迎ヘ奉ラムトスルニ際シ先ツ特ニ本橋
架愈施ノ提案アリシヲ以テ率先協賛ノ意ヲ表シ以テ其竣功ヲ期
待セリ今ヤ二旬ノ後 今上陛下御一代ノ御盛儀タル御大典ヲ迎
ヘ奉ラムトシ瑞氣天ニ漲リ歡呼地ニ湧カントスルノ秋本橋ノ無
事竣工ヲ見タルハ衷心慶賀ニ堪ヘス

余ハ本日ノ式典ニ列シ新裝成レル本橋ニ列國使臣顯官貴紳ノ威

容ヲ整ヘテ離宮ニ參スルノ盛觀ヲ想望シテ感激措ク能ハサルト

共ニ本橋ノ竣功ヲ本府産業交通ノ發達ニ一大貢獻ヲ齎スベキヲ
欣ア

聊カ所懷ヲ披瀝シテ祝辭トス

昭和三年十月十九日

京都府會議長 並川榮慶

祝 辭

茲ニ桂橋改築ノ工成リ本日ノ佳辰ヲトシ盛大ナル竣工式ヲ舉行
セラルハ洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ

思フニ桂橋ハ古來山陰街道ノ要衝ニ當リ車馬絡驛而モ西畔ニ桂
離宮ヲ負ヒ單ナル交通機關トシテ而已之ヲ見ルヲ得サルモノア
リ殊ニ近時交通益繁劇ヲ加フルト共ニ從來架設ノ橋梁甚ダ不完
全ニシテ屢破損シ府民齊シク之方改築ヲ要望スルニト多年ナリ
シモ各種ノ事情ハ容易ニ其實現ヲ許サザリシニ當局各位ノ熱心

ト不斷ノ努力ハ曠古ノ御大典ヲ機トシ遂ニ最新式ノ構造頗ル堅
牢ニシテ外觀ノ美自ラ四邊ノ風致ヲ加高シ壯麗府下ニ冠絶スル
大鐵橋ノ完成ヲ見ルニ至リ茲ニ府民多年ノ宿望漸ク達成セラレ
蓋シ府下ノ名橋トシテ長ヘニ府民ノ享クル利便ト福利ノ甚大ナ
ル言ヲ俟タス衷心歡喜ニ堪ヘサルナリ今竣工式ニ當リ當局各位
ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表スルト同時ニ將來ノ繁盛ヲ祝福シ一言以

ヲ祝辭トナス

昭和三年十月十九日

貴族院議員

風間八左衛門

◎産業道路費要求運動

水野會長首相内相訪問

昭和四年度豫算の編成に方つて、内務省は道路改良費豫算として一千萬圓を要求した、夫れは從來の道路改良費は

大正九年原内閣時代に創設されたものであつて、豫定支出額も相當巨額に達してゐたが、大正十二年以來遂次削減され加藤高明内閣時代に於ては年額纔に三百五十萬圓に減額され、爾來毎年三百五十萬圓を以て經理するの狀態である然るに地方に於て執行する道路改良工事は歲々共に増加し右豫算を以てしては到底之に應ずることが出來ない、工事は既に完成しても之に對し補助することが出來ないもの頗る多い狀態であるから明年度から七百萬圓を支出するの外、従前の道路政策に於ては主として國道の改良を目的と

したが、自動車の効果を地方産業に利用せしむるこの緊切なるに鑑み、自動車の利用する府縣道を國道と相俟て改良せしむる必要があるから、從來の道路政策を一部改訂し地方産業の開發上重要な府縣道千五百里を選択し、昭和三年度以降十年間に亘つて國庫から三分一を補助するの方針を樹て現内閣の採用する産業政策の一として之が實現を期するが爲、三百萬圓を要するので前記七百萬圓と合せ一千萬圓を要求したのである。

然るに之に對し大藏省は、全然新規の要求を排し三百五十萬圓しか是認しないこと、爲つたので、内務省は本年度の不成立豫算に於て大藏省が一度是認したこのある普通國道改良費五百萬圓産業道路改良費二百萬圓の復活を要求したのであつたが、政府の財源枯渴の嘆聲八ヶ間敷、いかに積極政策を高調したことは言へ、財政を無視して施政することは出來ない宜敷消極豫算を編成するのが可いと言ふ一部の輿論強調され、爲に折角要求された道路改良費豫算も其の運命危殆に頻するに至つた。

依て水野本會々長は、田中首相を訪問し産業の進展を
圖るが爲には是非自動車の利用を念させなければならず、
之が爲には自動車の利用する府縣道を改良することが、急
務であることを縷々陳述し、内務省の復活を要求した豫算
を以てするも尙足らざるの感あるとき、之を全部否認する
如きは餘りに時代の趨勢を無視するものであることを力説
したるに、田中首相も其の意見に賛成し相當考慮すべき旨
の言明を得たので、更に望月内相を訪問し、同様の意見を
陳述し諒解を得る所があつた。

◎全國交通調査の終了

道路改良計畫の根本方策を樹立するに必要な道路交通
の實勢を調査する本會主催全國交通調査に關しては前號所
報の通りであるが、如此全國統一的に舉行することは全く
我國最初の試みに屬するを以てその結果に付ては各方面よ

り多大の期待を懸けられたところであつた。愈々之が實施
に關しては各府縣市當局並に各地青年團、在郷軍人會等の
眞摯熱烈なる援助の下に、去月二十五日全國一齊に着手し
二十七日無事終了した。之れが結果に付ては追て詳細取纏
め發表する所あるべきも、不敢取之に關與せられたる各地
の諸彦に對し深甚なる感謝を表する次第である。(衛)